

Q7：「強酸」が効果を発揮するのではないのですか？

A7：以前は「低いpH（強酸）」と「高い酸化還元電位」により「微生物の生存できない領域を作り出す」ことで除菌できるとの仮説がありましたが、現在は「次亜塩素酸」が作用機序であるとされています。その根拠として国立感染症研究所等から以下検証結果が示されています。

1. 強酸性電解水を強アルカリ水で中和しても高い除菌効果が維持される。
2. pHと酸化還元電位が維持されていても残留塩素濃度が低下すると除菌効果が極端に低下する。
3. 強アルカリ水のpHと酸化還元電位も微生物の生存圏外にあるが、除菌効果は殆どない。

Q8：他にも「微酸性電解水」「中性電解水」といったものがありますが違うのですか？

A8：他の「微酸性電解水」「中性電解水」は原料に薬剤（塩酸等）を用いることでpHを調整しています。しかしこの生成方法では「原料（薬剤）にかかるコストが高い」「微酸性・中性でありながら液中の塩化物イオン濃度が高く錆び易い（金属によっては強酸性電解水より錆び易いものもある）」といった欠点が出てきます。AP水は食塩水のみを原料とし、特殊な電気分解方式を用いてpHを中性に調整することでこの欠点を克服しています。

● 使用上の留意点について

Q9：欠点はありますか？

A9：有機物と接触すると分解して食塩水に戻ってしまうため、残留性は期待できません。しかし「残留しない」→「人体・環境への影響が少ない」といった長所にもなっています。後、速乾性はないのでアルコール系消毒剤のように「手を拭く必要がない」といった簡易さはありません。

Q10：使用時に注意する点はなんですか？

A10：A9でも触れましたが、有機物との接触により分解し易いので対象物の汚れは事前に落とす、若しくはAP水の流水下で洗い流しながらご使用下さい。また原料が食塩水ですので金属製品への長時間の接触は避けること、接触後は水道水で洗浄されることをお勧めします。後、薬事は未承認ですので臨床では医師のご判断と患者さんへのインフォームドコンセントのもとご使用下さい。

Q11：効果が目に見えないので何か判断できるものはありますか？

A11：AP水は他の消毒剤同様に効果が目に見えるものではありませんが、効果をご判断いただくべく各種データを蓄積しております。また止血効果や消臭効果については確認いただくことが可能です。

Q12：手荒れは発生しますか？

A12：刺激は非常に少ないです。原料が食塩水のみ、且つ分解しやすいことと、pHが中性で手のpHに影響を与え難いことがその理由です。ただし塩素過敏症の方や、頻回な手洗いでて脱脂作用が発生した場合はこの限りではありません。もし発生した場合は専門の医師にご相談下さい。

Q13：器具等を洗浄する場合、何分くらい浸漬すれば良いのですか？

A13：一概には言えません。AP水は有機物と接触すると分解し食塩水に戻ってしまいますので、対象物の汚れ具合や量によって必要量が異なるためです。可能であればAP水の流水下でジャブジャブと洗浄する方法が効果的です。